

# 地域防犯力の強化について

地域名：栃木県  
地域パートナー：栃木県生活文化スポーツ部  
くらし安全安心課

5班 コミュニティデザイン学科 長島右京 小森稜太  
建築都市デザイン学科 藤原咲来 二木楓香  
社会基盤デザイン学科 鈴木颯馬 加藤滉一 鈴木碩  
グループ指導教員 三田妃路佳

## 背景

近年全国で児童が被害者となる事件の発生が相次いでいる。栃木県でも子供や女性に対する声かけ事案は多数報告されているが、被害届が出ないケースも多い。そういった状況の中でいかにして事件の発生を防ぐのかということを考えなくてはならなくなっている。

## 活動の目的

- ①子供たちに身を守る方法を分かりやすく伝える手段を考える
- ②地域住民の防犯活動への参加を促す方法を考える

## 調査方法について

調査①として9月13日に宇都宮市南図書館にて行われた「みんなのあんぜん大発見！くらしの安全安心フェア」において防犯トランプを持参し、フェアの来場者に試遊してもらう形で調査を行った。  
調査②として11月24日に行われた「とちぎコープフェスタ in うつのみや」にて防犯トランプとボードゲームを持参し、来場者に試遊してもらう形で調査を行った。



9月のフェアの様子



11月のフェアの様子



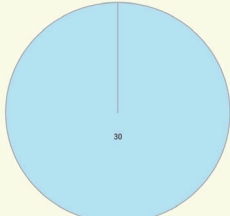
防犯トランプ



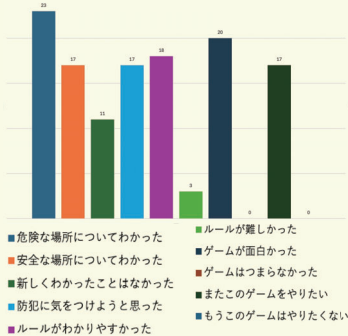
防犯ボードゲーム

## 分析結果

ゲームのような楽しく防犯について学ぶことのできるものについてどう思いますか



ゲームを遊んで思ったことを教えてください



アンケートでは、遊んでくれた子供たちにゲームを通しての感想やその理由について、保護者に対しては普段子供と行っている防犯に関する取り組みや遊びと学びを合わせるものの印象について調査した。その中で、ゲームを遊んで思ったことについての質問では多くの子供から「危険な場所が分かった」、「ゲームが面白かった」等のゲームに対して肯定的な回答が得られ、私たちの意図する遊びと学びの両立を実現出来ていたことが確認できた。また、保護者に対してゲームのような楽しく防犯について学ぶことができるものについてどう思うかという質問に対しては、回答した全ての保護者から肯定的な回答が得られ、学校、各家庭で子供の防犯教育をする際の教材としての利用の可能性についても確認できた。

## 活動の流れ

### 取り組みに参加

- ・地域安全教室への参加
- ・ずっと話を聞いただけだと子供たちの集中力が続かない
- ・子供たちに興味を持ち続けてもらうことが課題

### 課題へのアプローチ

- ・子供の防犯意識の向上に対して取り組む
- ・子供にとってわかりやすく、かつ楽しく学べる手段が望ましい
- ・学びと遊びの両立ができるものを作成する

### 目標設定

- ・トランプとボードゲームの2種類を作成する
- ・実際のフェアに作成したものを持って出展する

### 成果物の内容検討

- ・トランプの内容とルールを検討・試作する
- ・ボードゲームの目的決定と達成する方法の検討

### 調査①

- ・9月のフェアにゲームを持参し出展
- ・来場者に試遊してもらう形で調査を実施
- ・アンケートから改善点を調べる

### 調査②

- ・内容の再検討と改善を行う
- ・11月のフェアにゲームを持参し出展
- ・来場者に試遊してもらう形で再調査を実施

## 提案と今後

### プロセス

子供たちが知識を得る過程には飽きさせない工夫として楽しさが必要である。

01

ゲームに効果があるかどうかを客観的に測定する方法を考え、より効果が大きくなるようにゲームに改良を加える。

02

子供たちが学びを活かして実際に行動することにより

03

栃木県で子供が犯罪に巻き込まれない社会がつけられる。

04

ゲームを小学校に配布し遊びながら学んでもらい、防犯意識の向上をはかる。意図を知らずに遊び、学びとって結実することを狙う。